

「長崎材木店」がつくった
佐賀県鳥栖市在住ノIさんの住まい

愛着あるデニムのように 魅力を増す、家族の歴史

広い敷地に並んで建つ2軒の邸宅。
1軒は息子さんご一家、もう1軒は
ご両親の住まい。「長崎材木店」とIさんが
約3年かけて完成させたこの家で、
新しい家族の歴史が綴られています。

ひとつの敷地に2軒の家 親子2世代で楽しむ暮らし

桜、ケヤキ、クヌギ、カエデ…広い敷地にはもう何十年も前に植えられた木々が雑木林のように茂っている。春はお花見、秋は紅葉を眺めながら過ごす。花が咲き、色づく木々の表情はIさんご一家だけでなく、ご近所の方々も楽しみになさっている。この敷地に、今は2軒の家が建っている。道行く人が思わず足を止めて見入る2階建ての家はIさんご夫妻の住まい。その横に建つ平屋はIさんのご両親の住まいだ。

今から30年ほど前、ご両親はこの土地に小さな病院と住まいを構えた。若かったお2人が開業と同時に建てた家は最低限の間取りしか

なかったが、懸命に働き、少しずつ増築をしながらそこで5人のお子さんを育て上げた。お子さんたちが独立し、ご夫婦ふたりで生活する中、医療の道に進んだ息子さんから「一緒に住もう」といううれしい提案が。それならいいとのこと、それぞれの家を建てようじゃないかという話がまとまった。

「私たちは老後、息子たち家族は子育て、と互いの人生のサイクルを考えて、気を遣わなくていいように家もそれぞれ1軒ずつ建てることに。どんな家にするかは、息子夫婦の考えを尊重しました。そうして息子を介して初めてお会いしたのが、長崎材木店さんだったんですよ」とご両親。今から3年ほど前の話である。

右が息子さんご一家、左がご両親の住まい。どちらも冬には薪ストーブをご利用。お揃いの煙突が仲睦まじい様子を表している

